

---

# 夜警さんがゆく（四百文字お題小説）

りったん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夜警さんがゆく（四百文字お題小説）

### 【Nコード】

N0774BA

### 【作者名】

りったん

### 【あらすじ】

いつものお題小説です。

(前書き)

沢木先生のお題に基づくお話です。

今回は「夜警」をお借りしました。

佐々木次郎はある会社の警備員。

元日だと言つのに夜勤だ。

今日は家で妻と二人でゆっくりしたかったなと思う次郎である。

しかし仕事は仕事だ。

「じゃあ、定期巡回に行つて来ます」

もう一人の警備員の宮本武男が言い、警備室を出て行つた。

「次郎さん、明けましておめでとうございます」

そこに晴れ着姿のスチャラカOLの律子と紋付き袴の彼氏の藤崎君が現れた。

「おう、おめでとう、律ちゃん、藤崎君。二人揃つてどうしたんだ」  
「？」

雄吉は驚いて尋ねた。

「いつもお世話になつてるから」

律子は缶ビールをレジ袋から出して見せる。

「いや、勤務中だからまずいよ、律ちゃん」

雄吉はつい嬉しそうな顔をしてしまったが、慌てて断わった。

「大丈夫。ノンアルコールだから。宮本君と飲んでね」

律子はレジ袋を机の上に置くと警備室を出て行った。

「ありがとうな、律ちゃん、藤崎君」

雄吉は部屋を飛び出し、通路を歩いて行く二人に言った。

皺だらけの目尻に涙が滲んでいた。

(後書き)

お読みくださり、ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0774ba/>

---

夜警さんがゆく（四百文字お題小説）

2012年1月1日21時50分発行